

右の表中、攝弧内にあるものは語源の異なることを示し、線を引きたるは語の未詳なることを示すものである。(終り)

## 古韻聲音の研究

大島 正健

二千數百年前の昔に溯り、遠き古の年代より、既に亡滅したる支那の古韻を推測し、これが還元を試みんとするは、今日と爲りては、殆ど不可能の業なるが如し。且つ發音を表はすに適當なる標記法無きも、是亦遺憾少からず。羅馬字は比較的多數の音を表はすことを得れども、現代支那音に對しても、到底完全に之を寫すこと能はず、唯之を標準としてその大體を察し得るのみ。故に現代支那音を基とし、羅馬字を用ひて、古韻を推定せんとせば、その到着して、得る所のものは、大體の上の尙大體なるのみ。其れより以上は之を起點として延長し、推察を下すより外、良法なかるべし。我假名を以て、其音標とすること、羅馬字に比すれば尙更に不完全なるは、言ふまでも無し。

されど古韻にも亦變遷の法則ありて、之を探ること決して望無きに非ず。要は唯

學理に忠實にして、周到綿密なる注意を用ゐるに在り。研究者の頭腦に始より多少の臆説を藏するときは、不知不識の間に、獨斷説に傾くに至るべきは、免れざる所なり。支那諸大家の古韻論に、一致せざる所多きは、自説を立て置きて、見解を下す常癖あるに職由するものゝ如し。斯道の研究は、無心にして、事實に忠誠なること最も肝要なるべし。

左に古韻諸部中難解なる者の一を舉げて、研究の材料と爲し、先づ時に見えたる押韻の例を出だし、是に我假名の音釋を試むべし。

周南、螽斯

螽斯羽詵詵兮。宣爾子孫振振兮。

邶風、北門

出自北門。憂心殷殷。終窶且貧。莫知我艱。

同、新臺

新臺有酒。河水浼浼。燕婉之求。蘧篋不殫。

邶風、鶉之奔奔

鶉之疆疆。鶉之奔奔。人之無良。我以爲君。

衛風氓

桑之落矣其黃而隕。自我徂爾三歲食貧。

王風葛藟

葛藟在河之漘。終遠兄弟謂他人昆。謂他人昆亦莫我聞。

鄭風女曰雞鳴

知子之順之雜佩以問之。

同 出其東門

出其東門有女如雲。雖則如雲匪我思存。縞衣綦中聊樂我員。

魏風伐檀

坎坎伐輪兮。寘之河之漘兮。河水清且淪兮。不稼不穡胡取禾三百困兮。不狩不獵胡瞻爾

庭有縣鶉兮。彼君子兮不素飭兮。

小雅庭燎

夜如何其夜鄉晨。庭燎有輝君子至止言觀其旂。

同 小弁

相彼投兔尙或先之。行有死人尙或瑾之。君子秉心維其忍之。心之憂矣涕既隕之。

同、何人斯

彼何人斯其心孔艱。胡逝我梁不入我門。伊誰云從維暴之云。

大雅、鳧鷖

鳧鷖在臺。公尸來止熏熏。旨酒欣欣。燔炙芬芬。公尸燕飲。無有後艱。

同、雲漢

早旣大甚。滌滌山川。早魃爲虐。如燠如焚。我心憚暑。憂心如熏。羣公先正。則不我聞。昊天上帝。寧俾我遯。

周頌、載芣

千耦其耘。徂隰徂畛。

蠡斯の詠振は共にシンなり先づ疑問と爲し置くべし。

北門の門はモン殷はイン貧はヒン艱はカンなり。斯くては韻を爲さず。門をモンとせば殷を呉音のオン貧をホン艱を良の聲に従ひてコンと爲すべし。

新臺の酒はセン澆はベン殄はテンなること疑問なり。

鶉之奔奔の奔をホンと爲せば君をコンと爲すべし。

氓の隕はシン貧はヒンなり。貧をホンに作るときは隕を呉音のランに作るべし。

葛藟の漚はシン。昆はコン。聞はブンなり。是は韻を爲さず。昆をコンと爲せば、聞を  
吳音のモンと爲し漚をソンに作るべし。

女曰雞鳴の順はジュン。問はブンなり。問を吳音にてモンと爲せば、順をジョン又ゾ  
ンと爲さざるを得ず。

出其東門の門はモン。雲はウン。存はソン。巾はキン。員はキンなり。是は韻を爲さず。  
門をモン。巾を吳音のコン。員を氓の隕の如くファンと爲せば、雲をファンに作らざるを  
得ず。

伐檀の輪。淪はリン。漚はシン。困はキン。鶉はジュン。殮はソンなり。是は韻を爲さず。  
殮のソンに従ひ、漚を葛藟の如くソンと爲し、輪淪をロン。困をコン。鶉をジョン。又ゾ  
ンに作るべし。

庭燎の晨はシン。輝はキ。旂はキなり。晨をソン。輝をコン。旂をコンに改むべし。  
小弁の先はセン。燿はキン。忍はジシ。隕はキンなり。燿を吳音のコンと爲し、隕を氓の  
如くファンと爲せば、先をソン。忍をゾンと爲さざるを得ず。既に先にソン。漚。晨にソ

ンの音ありとせば、蠡斯の誥。振は共にソンと爲るべし。  
何人斯の類はカン。門はモン。云はウンなり。類をコン。門をモンと爲せば、云は出其東

門の雲と同じくランに作るべし。

鳧鷖の臺はモン、熏はクン、欣はキン、芬はフン、艱はカンなり。臺はモン、欣は呉音のクン、艱はクンなれば、熏はコン、芬はホンと爲るべし。

雲漢の川はセン、焚はフン、熏はクン、聞はブン、遯はトンなり。熏をコン、聞をモン、遯をトンと爲せば、川をソン、焚をホンに作るべし。川のソンなるは、女曰雞鳴の順のゾンなるに合ふべし。

載芟の耘はウン、畛はシンなり。云を何人斯の如くランと爲せば、耘を之と同音と見做すべし。さすれば、畛をソンに作ることもなる。同じ聲符の參に従ふ、疹はトンと爲るべく、さすれば新臺の洒はソン、洗はモンに作ることも爲るべし。

右はオンを本位として立てたる見解なり。若し云分、聞君、熏鶉等の音の標準に従ひ、オンに代ふるにウンを以てし、之を本位とするときは、説をスン、門をムン、殿をウン、艱をクン、巾をクン、川をスンと言ふが如く改むることを要す。左の例はオン説を確かむるに似たり。

### 大雅桑柔

憂心慙慙。念我土守。我生不辰。逢天俾怒。自西徂東。靡所定處。多我觀瘡。孔棘我圍。

嚴○辰○瘡○は○東○(ト○ン○グ)○と○押○す。

楚辭遠遊

舒○並○節○以○馳○驚○兮○遠○絕○垠○乎○寥○門○。軼○迅○風○於○清○源○兮○從○顛○頂○乎○增○氷○。

門○は○氷○(ヒ○ヨ○ン○グ)○と○押○す。

司馬相如子虛賦

驚○于○鹽○浦○割○鮮○染○輪○。射○中○獲○多○矜○而○自○功○。

輪○は○功○(コ○ン○グ)○と○押○す。

東○は○ツ○ン○グ○功○は○ク○ン○グ○な○り○し○と○考○ふ○れ○ば○ウ○ン○説○に○力○を○添○ふ○る○に○至○る○べ○け○れ○ど○氷○は○ヒ○ユ○ン○グ○と○響○さ○た○る○こ○と○無○か○り○し○が○如○し。

オ○ン○説○尙○無○理○な○る○所○あ○り○ウ○ン○説○は○更○に○説○明○に○困○難○に○し○て○事○實○に○遠○き○が○如○し。然○ら○ば○古○韻○は○オ○ン○と○ウ○ン○と○混○用○な○り○し○と○見○て○解○釋○を○下○す○べ○き○か○其○れ○に○し○て○も○難○解○尙○少○か○ら○ず。

秦風小戎

俊○駟○孔○羣○。公○矛○塗○淳○。蒙○伐○有○苑○。

羣○淳○の○苑○と○押○す○こ○と○如○何○。

楚辭九章

茲歷情以陳辭兮，孫詳聲而不聞。固切人之不媚兮，衆果以我爲患。聞○と患○と押すこと如何。

同、遠遊

道可愛兮而不可傳，其小無內兮其大無垠。毋滑而魂兮，彼將自然。壹氣孔神兮，於中夜存。虛○以○待○之○兮，無○爲○之○先。庶○類○以○成○兮，此○德○之○門。垠○存○先○門○と傳○然○と押すこと如何。

同、九辯

食不媮而爲飽兮，衣不苟而爲溫。竊慕詩人之遺風兮，願託志乎素餐。溫○と餐○と押すこと如何。

枚乘、七發

冥火薄天，兵車雷運。旌旗偃蹇，羽旄蕭紛。天○蹇○と運○粉○と押すこと如何。

司馬相如、封禪頌

厥之有章，不必諄諄。依類託寓，諭以封禪。



諄と鬱と押すこと如何。

王褒九懷

河伯兮開門迎予兮歡欣。顧念兮舊都懷恨兮艱難。

欣と難と押すこと如何。

以上の諸例にて、オン又ウンの聲と假定せる者に對する一方の者は、アン、エンの聲なりとす。アン、エンには、オンは尙通ひ得べしと思はるれど、ウンに至りては其聲の距離甚だ遠し。此の如き押韻法はウン説には支へ得べからざる打撃と謂ふべし。或は唯單に古韻の用法は、緩くして廣かりしものと見做して、之を説き去るべきか。降つて唐宋の時代に於いても、往々同様の押韻法を見ることありと雖も、其は時代音を標準とせずして漢以前の古法に摸したる所多きに似たり。古韻に至りては、自然の聲に據りたるべきこと疑ふべき所に非ず。されば兩聲の間に屢々往來の行はれたるは、其聲の相近かりしものと斷言して差支無かるべし。ウン説に従へば分はブンなるべし。然るに左の如き押韻あり。

衛風碩人

巧笑倩兮美目盼兮

盼は説文に目に従ふ分の聲とあり。然るに之と押したる所の情は、人に従ふ青の聲にして、シヤング又セングにて、後世センと爲る。盼の音をヘンと爲すときは、分の聲と距ること遠きに至るべし。

オン又ウンの聲と假定せる者は、アン、エンの聲を有する者に通ひたるのみならず、東漢以後に至りては、次第に其方に移り入りたる者あり。念の聲に従ふ殄、存の聲に従ふ荐、員の聲に従ふ圓、良の聲に従ふ眼、艱の如し、先、川、舛、免等も、同じくエンの聲に轉ぜり。左に川の一字を取りて證例となす。

班固東都賦

秦嶺九峻涇渭之川。曷若瀆五嶽帶河泝洛圖書之淵。建章甘泉。館御列仙。

張衡週天大象賦

野雖俟兵而據市。天狗吠盜而映隼。闕立擬乎兩觀。水府司乎百川。

此時代にては、川は既にセン (Sen) にて、ソン又スン或はツンの音に非ざりしこと明かなり。

ウン説採るべからずと唯も、オン説も尙未だ全からず。左に此類に屬する無尾韻と

有尾韻と相押したる例を擧げ、其説明に更に困難なる所あるを示すべし。

邶風北門

王事敦。我政事一埤遺我。

衛風碩人

碩人其頤。夜錦褰衣。齊侯之子。衛侯之妻。

小雅杖杜

卜筮偕止。會言近止。征夫邁。

楚辭招魂

與王趨夢兮。課後先。君王親發兮。憚青兕。

韋孟諷諫詩

肅肅我祖。國自豕韋。黼衣朱黻。四牡龍旂。

王褒洞簫賦

嗉呬。咳喚。躡躡連絕。漚殄。池兮。攬搜。溲捐。逍遙。踴躍。若壞。頽兮。

109. 右は有尾韻の方の尾音を落として無尾韻に通ひたる例のみなるが如し。有尾韻に屬する敦。頤。近。先。旂。池の尾音の(ㄣ)を取りて、夫々無尾韻の者と押したるを見るに。

之にオ又ウの聲を當て、は明確に説明を施し難し。是より更に進んで、之に對する無尾韻の方は如何なる類の聲なりしか、其迹を探るべし。

小雅、谷風

習習谷風、維風及頹。將恐將懼、寘予于懷。將安將樂、棄予如遺。遺は北門頹は洞簫賦に見ゆ。

齊風、南山

南山崔崔、雄狐綏綏。魯道有蕩、齊子由歸。既曰歸止、曷又懷止。懷は谷風に同じ。

楚辭、九歌

駕龍輔兮乘雷、載雲旗兮委蛇。長大息兮將上、心低徊兮顧懷。羌聲色兮娛人、觀者儻兮忘歸。

懷歸は南山に同じ。蛇はアの聲なり。

史記、鈇傳

依之違之、周公綏之。憤發大德、天下和之。

違は諷諫詩の章と同音なり。綏は南山に同じ。和はアの聲なり。

周南・葛覃

葛之覃兮。施于中谷。維葉萋萋。黃鳥于飛。集于灌木。其鳴喈喈。  
妻は碩人に見ゆる妻と同音にして、喈は杖杜に見ゆる偕と共に皆の聲に従ふ。

鄘風・風雨

風雨凄凄。鷄鳴喈喈。既見君子。云胡不夷。  
喈は葛覃に同じく、凄は萋と同音なり。

楚辭・遠遊

使湘靈鼓瑟兮。令海若舞馮夷。玄螭蟲象並出進兮。形繆虬而透蛇。鸕蜺娟目增撓兮。鸞鳥  
軒翥而翔飛。

夷は風雨に同じ。蛇はアの聲なり。飛は葛覃に同じ。

司馬相如上林賦

揜以綠蕙。被以江蘼。糝以麗蕪。雜以留夷。布結縷。攢良莖。

夷は前に同じ。蕪はアの聲なり。莖は後世イの聲と爲る。

周南・葛覃

言告師氏。言告言歸。藻污我私。薄澣我衣。

歸は南山九歌に同じ。衣は碩人に見ゆ。

小雅小旻

滄滄訛訛亦孔之哀。謀之其臧則具是違。謀之不臧則具是依。我視謀猶伊于胡底。  
 違は史記敘傳に擧ぐ。依は葛覃の衣と同音なり。

同小弁

鹿斯之奔維足伎伎。雉之朝雝尙求其雌。

雌は小旻の訛と同じく此の聲に従ふ。伎はヤ又エの聲にして後世イの聲と爲る。

道德經

知其雄守其雌。爲天下谿。爲天下谿。常德不離。復歸於嬰兒。

雌は前に同じ。谿兒はヤ又エの聲にして離はアの聲なり。兒離は後世イの聲と爲る。

楚辭九辯

靚秋之遙夜兮。心繚悵而有哀。春秋遑遑而日高兮。然惆悵而自悲。四時遞來而卒歲兮。陰陽不可與儷偕。

哀は小旻に同じ。借は杖杜に見ゆ。

漁父歌

日已夕兮予心憂悲。月已馳兮何不渡爲。事寢急兮將奈何。  
非は前に同じ。爲は何はアの聲なり。爲は後世イの聲に移る。

邶風、谷風

行道遲遲。中心有違。不遠伊邇。薄送我畿。

違は小旻に同じ。邇は杖杜に見ゆ。

同、泉水

出宿于涉。飲餞于漚。女子有行。遠父母兄弟。問我諸姑。遂及伯姊。  
漚は邇と同じく、爾の聲に従ふ。

周頌、載芟

載穫濟濟。有實其積。萬億及秭。爲酒爲醴。

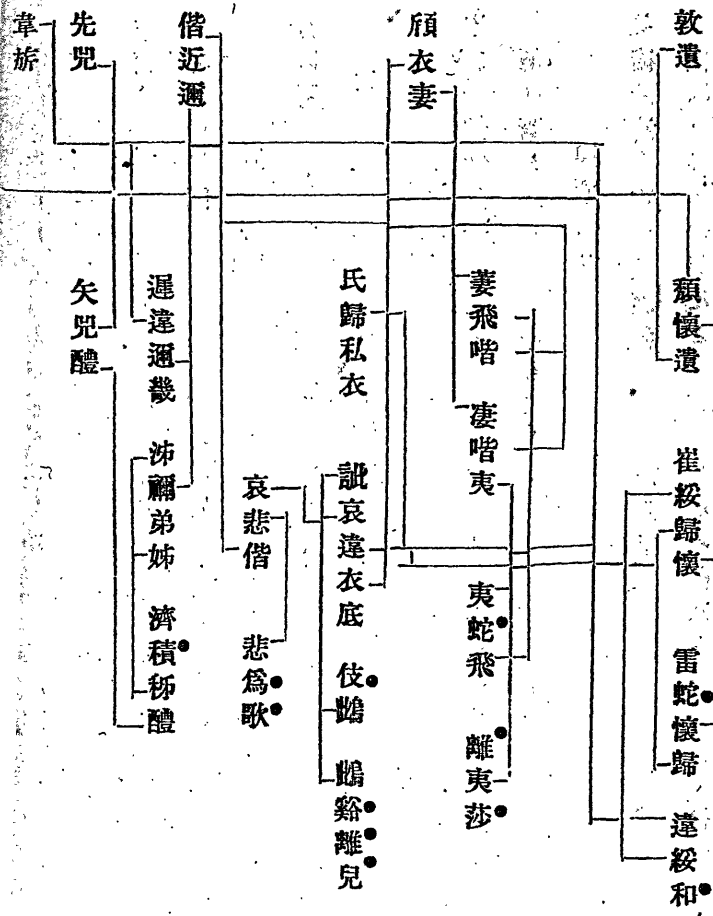
積はヤ又エの聲なり。秭は泉水の秭姊と共に、秣の聲に従ふ。

小雅、吉日

既張我弓。既挾我矢。發彼小豸。殪此大兕。以御賓客。且以酌醴。

兇は招魂に見ゆ。醴は載妾に同じ。

右詩歌の韻字の關係をして、一見明瞭ならしむるがため、一括して左の如く記す。





此部の無尾韻の中より直ちに有尾韻のアン、エンのンを取りたる者に通ひたる例あり。

邙風新臺

新臺有泚。河水瀾瀾。燕婉之求。遶籓不鮮。

泚は小旻の泚と同聲符。瀾は杖杜の瀾と同聲符なり。鮮はヤン又エンの聲なり。又爾の聲に従ふ瀾にセンの音あり。

小雅谷風

習習谷風。維山崔嵬。無草不死。無木不萎。忘我大德。思我小怨。

邙の谷風に死は菲體。違と押したる例あり。體は載芟の醴と同聲符にして、違は小旻に同じ。怨はヤン又エンの聲なり。

右の諸例を参照して、考察を下すときは、當問題の韻は、有尾韻の方の既に述べたるが如く、アン、エンの聲に通ふのみならず、是と密接の關係ある無尾韻の方も、亦ア、エの聲に通へるを見るなり。

右の無尾韻は又オの聲に通ふことあり、左に二三の例を出だす。

## 衛風竹竿

泉源在左淇水右。女子有行遠父母兄弟。

右の古音オの聲に近し故に左の如き押韻あり。

## 枚乘七發

三良造父爲之御。秦缺樓季爲之右。

弟は泉水に同じ。

## 大雅桑柔

國步蔑資。天不我將。靡所止疑。云徂何往。君子實維。秉心無競。誰生厲階。至今爲梗。

疑を聲符とせる巖にギョク (Heiok) の聲あり。階は杖杜の偕と同音なり。

## 越采葛婦歌

女工織兮不敢遲。弱於羅兮輕霏霏。號稀素兮將獻之。越王悅兮忘罪除。

遲は邨の谷風に同じ。之は亦疎と押したる例あり。

## 劉章耕田歌

深耕概種立苗欲疎。非其種者鋤而去之。

内は大雅蕩に類と押し。類は又同既醉に匱と押して共に同韻に入る。匱は北門

谷風の遺。と同聲符に屬す。然るに内。を聲符とせる訥に、トツの音あり。此字惑ヲク（即ち Fok）と押したる例あり。

董仲舒士不遇賦

目信嫫而言眇。口信辯而言訥。鬼神不能正人事之變。良兮。聖賢亦不能開愚夫之遠惑。此の如くにして、問題の韻は一方にてはア、エの聲に通ひ、一方にてはオの聲に通ひたるものに似たり。故に此條件を充たすため、結論として其聲をオに近きエ或はエに近きオと判定し、無尾韻の方を○、有尾韻の方を●に作ることにせり。之を中心として、後世エ、イ、オ、ウ、及びエン、イン、オン、ウンの分れ出でたるものと決斷す、而して其分裂の時を追ひて起りたるは、是亦其證を擧ぐることを得べし。